

5年生 「Unit7 What would you like?」(全6時)

1. 授業の実践記録

(1) 英語を用いて主体的にコミュニケーション活動に取り組むための工夫(仮説1)

【めあてにつなげる Small Talk の工夫】

授業に毎回 Small talk を取り入れ、本時の話題の提示をしたり、児童の考えを引き出したりしながら本時のめあてにつなげるようにした。Small talk の内容は、児童が興味をもちやすく、自分事としてとらえられるような話題にアレンジした。Small talk の内容を想像しながら聞くことで、基本的な語句や文法に触れ、自分でも言ってみたいと関心が高まるようにした。

HRT: Last weekend, I went to “Chatetraise” with my family, and I bought some cupcakes. Look at this. (実際の商品画像を見せる) Doesn’t this look delicious? Can you guess? (児童に値段を予想させる)

児童1: 600yen!

HRT: OK. Akari said 600 yen. Any other ideas?

児童2: 350yen!

HRT: Kota said 350 yen. The answer is 350 yen! Do you think that’s expensive?

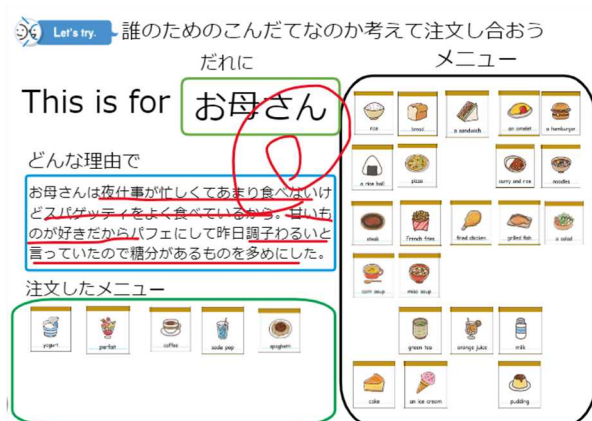
《児童を巻き込んで行った Small talk の例” How much is it~?”》

(2) 相手のことを考えて、自分の思いや考えを豊かに表現するための工夫(仮説2)

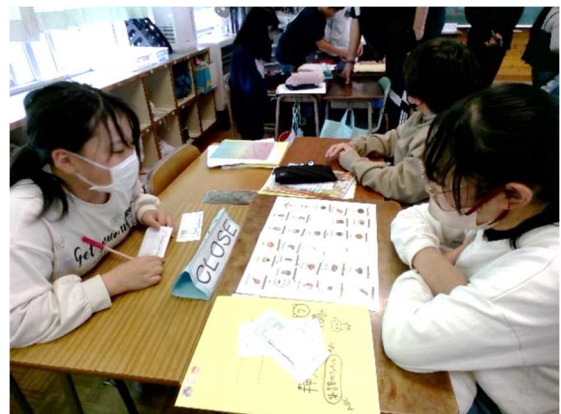
【目的意識をもたせた活動・児童の興味・関心に沿った言語活動の工夫】

第3時では、身近で大切な人のためのメニュー作りをする活動を設定した。目的意識をもたせることで、相手の状況を踏まえたり好みに合ったメニューを考えたりすることができるようにした。

単元の最後には” What would you like?” や” I would like~.”, ” How much is it?” や” It’s ~yen.” など、そこまでに学んだ語句や表現を使いながら客と店員に分かれて注文をし合った。客側は2000円分の買い物券をもち、現実場面に近い条件で買い物のやり取りをすることで、楽しさを味わいながら主体的にコミュニケーションを行うことができるようにした。



《メニュー作りを行った児童の作業画面》



《買い物のやり取りの様子》

(3) 英語に慣れ親しみ、学ぶ楽しさを実現するための工夫（仮説3）

【導入に取り入れる歌やゲームの工夫】

英語の音声に慣れ親しむために、授業の導入時に季節に合った”Jingle bells”を歌ったり、単元で習得させたい単語を使つての「クラッシュゲーム」を行ったりした。

2. 指導の結果と考察 ○成果 ●課題

(1) 英語を用いて主体的にコミュニケーション活動に取り組むための工夫（仮説1）

○学年や学級の実態に即した Small talk の実践によって、児童が楽しみながら会話を聞き、興味をもって授業に取り組む様子がみられた。児童から「今言った言葉、何？」などの声上がり、本時で学ぶ表現に興味をもつ児童が見られた。

●Small talk の際に ALT をさらに活用することで、児童にとってより興味をもちやすい内容になる。その際には、ALT との打ち合わせを計画的に行う必要がある。

(2) 相手のことを考えて、自分の思いや考えを豊かに表現するための工夫（仮説2）

○自分の身近で大切な人のためのメニュー作りでは、どんなメニューにしたら相手が喜ぶかを基準に食べ物を選び、相手を思い浮かべてペアで注文し合っていた。

○レストランでの注文体験では、手持ちの金額から自分の欲しいものを注文するという目的意識のもとで、学んだ語句や文法を使用してコミュニケーションを行うことができた。現実場面に近い条件を設定したことで、児童は活動に熱中していた。

●店役の児童の商品の価格設定や、客役の児童が何を買うかに躊躇する時間が多く、言語活動の時間が短くなってしまった。活動の時間を十分に確保できるように、説明を簡略化したり、児童にデモンストレーションをさせたりする必要がある。また、語句や文法、発音への自信の弱い児童が日本語で注文のやり取りを行っている様子が見られた。重要な文法を中心に練習したり、活動内容を精選したりする必要がある。

(3) 英語に慣れ親しみ、学ぶ楽しさを実現するための工夫（仮説3）

○”Jingle bells”では、歌う回数を重ねるごとに自信をもって歌う児童の姿が多く見られ、振り返りに「歌に慣れていった。」という記述があった。また、授業の後にも自然と歌を口ずさむ児童も見られた。

●児童にとって歌いやすく、興味をもちやすい歌を選曲する必要がある。